
155話 才能

吉川明人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

155話 才能

【Nコード】

N8124R

【作者名】

吉川明人

【あらすじ】

今ワシの手の中に、生涯一度しか使用できない、自分の知らなかつた才能を開花させることができる『才能発見器』がある。

今、ワシの手の中に『才能発見器』がある。

これを手で握りしめ、赤のライトが青に変わってからボタンを押せば、自分の知らなかった才能を開花させることができる。

ただし、脳の眠っている部分を揺さぶる装置なので負担が大きく、生涯で一度だけしか使用できないのだ。

この装置が発明された当時は、誰もが自分の可能性を信じ、期待に満ちてボタンを押した。

だが、それは必ずしも満足を得られるものではなかった。

すでに才能を開花させているにも関わらず、それでもなお目の目を見ることのできない人々。

また才能そのものがないと判断された人々。

今から思えば装置の脳を走査する精度が低かったため、あるはずの才能を見つけられなかった人が大勢いたはずだ。

中には、非合法でもう一度装置を使い、廃人になったケースも多くある。

まだ若かったワシは、安易に才能を手に入れるなど邪道と思い、自分の力を信じて地道にコツコツ働いてきた。

決してパツとした人生ではなかったが、妻と出会い子宝に恵まれ、孫もできた。

そして今、長いようで短かった人生の縁に立ち、心残りがあったことに気づいたのだ。

そう。ワシの隠された才能とはなんだったのかだ。

今さら知ったところで、どうすることもできないが、もし若いころ使っていたとすれば別の人生があったかもしれない。

純粋な好奇心と、昔を思い出す以外の楽しみを手に入れるつもりで、ワシはついにこの装置を手にした。

装置を握り、ライトの色が変わるのを待ち、ボタンを押したとたん、ジーンと脳がしびれる感覚に襲われ、ディスプレイにどんな才能が開花したのか示される。

それを見たワシは、なんとも複雑な気分になった。

たしかにこの才能があったなら、人生のあちこちで役に立つただろう。

人によっては欲しくて仕方ない才能に違いない。

ディスプレイには『決断力』と示されている。

むしろこの才能がなかったからこそ、人生の岐路で思い悩み、苦しみ抜いて成長してきた今のワシがある。だからこそ装置を使いそびれていたのだ。

これまで使わずに、そして、今使って本当に良かった。

電源をOFFにすると、ディスプレイに『Good Luck!』と表れて消えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8124r/>

155話 才能

2011年10月6日20時47分発行